

昔から五島列島には溶岩が豊富に存在します。最初に島を拓いた先人たちは、島中で見られる黒い岩石に慣れ親しんでいたことでしょう。

彼らは溶岩石で魚を捕らえる独創的な方法を編み出していました。まず、入り江の浅瀬に入り、小石で水面下の溶岩どうしを結んで囲いを作ります。囲いは満潮時の水面の高さに調整します。潮が満ちると魚が囲いに入ります。漁師は再び潮が引くのを待つだけです。水面が下がり泳ぎ回れなくなった魚は中に閉じ込められ、素手でも原始的な網や銚でも簡単に捕まえることができました。

富江の人々はこの漁を「すけ漁」と呼んでいました。挑戦してみたいという方には、近くの「さんさん富江キャンプ村」にて、「すけ漁」を体験する教室が開かれています。